

クレシエンス島の闘争

Additional Stories ~ Episode II ~



DOJIN
R18
成人向け
18歳未満の
購入・閲覧禁止

■ルブラン=アドリアーナ
クレシェンス島 島主
ドS——。



■右大路 綾誇
(うだいじ あやか)

官設中央総合学府 2年

アドリアーナに囚われ
いっぱいエッチな目に...





■ まえがき ■

ご覧いただき誠に
ありがとうございます

本編との兼ね合いにより省略しておりますが
状況はあやかに
逃走及び抵抗防止の拘束帯が付けられております

「あなたがイク前に私をイかせられたら
外してあげる」
という提案に乗る形でアドリアーナとあやかの
セックス対決といったニュアンスの内容です

「攻める方が有利に決まってるじゃないっ！」と
ごねにごねた結果
あやかが主導権を握る形になっております

それでは、楽しんでいただければ幸いです





ぬる

性格悪いなあ...

んっ♡

んっ♡

もう...
すぐそろういうこと
言う...



んっ♡
んっ♡

んっ♡

早く入れたくて
おまんこぬるぬるにしているのに
濡らす必要なんて無いでしょ？



ふふ...♡...ほら♡ほらあ♡...
入っちゃうわよお♡♡

んっ♡

んっ♡

んっ♡

んっ♡

んっ♡

んっ♡

んっ♡

んっ♡



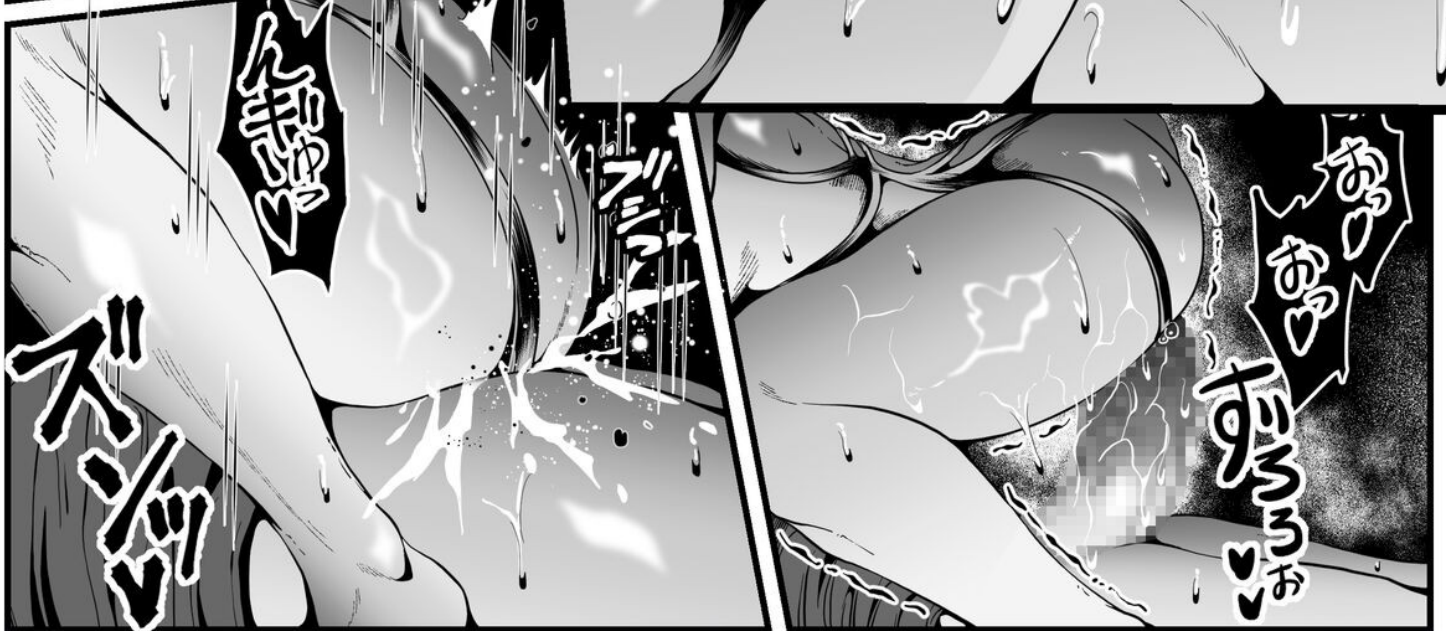
余裕ぶつてないで
さっさと動けば……？

ハっ……
あなたがね……
おまんこいやらしく
ヒクつかせて……♡

入れただけで
イきかけたでしょ？

危なかったわね……

ふふ……♡
おちらん^{なか}の
膣内^{なか}で
ビクビクッって……





あゝもうっ♡
こんな気持ち良いの
我慢出来る
わけないじゃない♡

ぬるん



止まないっ♡
勝手に動いちゃうっ♡

ふるん

だめっ♡
腰っツ!



おふるん♡

どうせおまんこで
おちんぼしごかなきゃ
イかせられないんだからあ



仕方ないのよっ
ねっ♡



あはあっ♡
まじもぢご
らっ♡



らめっ♡
イってっ♡
早くイってえ♡

私だけが好き勝手
動いちやつてるのにいっ♡

らめえっ♡
こんなっ♡こんなのでっ♡
先にイったら
言い訳出来ないっ♡

だめっ♡だめえ♡
おまんこお…♡
イさはじめちやつてるっ♡

早くっ♡早くっ射精してっ
あやかの淫乱まんこにつ
あっついザーメンどぶどぶ
射精してええっ♡♡

スィ
スィ
スィ
スィ

スィ
スィ
スィ

スィ
スィ
スィ



いやらしい
ひだひだがねっとり
絡み付いてきてえ♡

きもちいいッ♡
膣壁きゅんきゅん締め付けて
肉ひだ痙攣させてえ…

あ、あなた…
これ？イってない？

だめっ♡
こんなのっ我慢出来ないっ

射精る♡♡
射精るわあぁッ♡♡

スィ
スィ

スィ
スィ

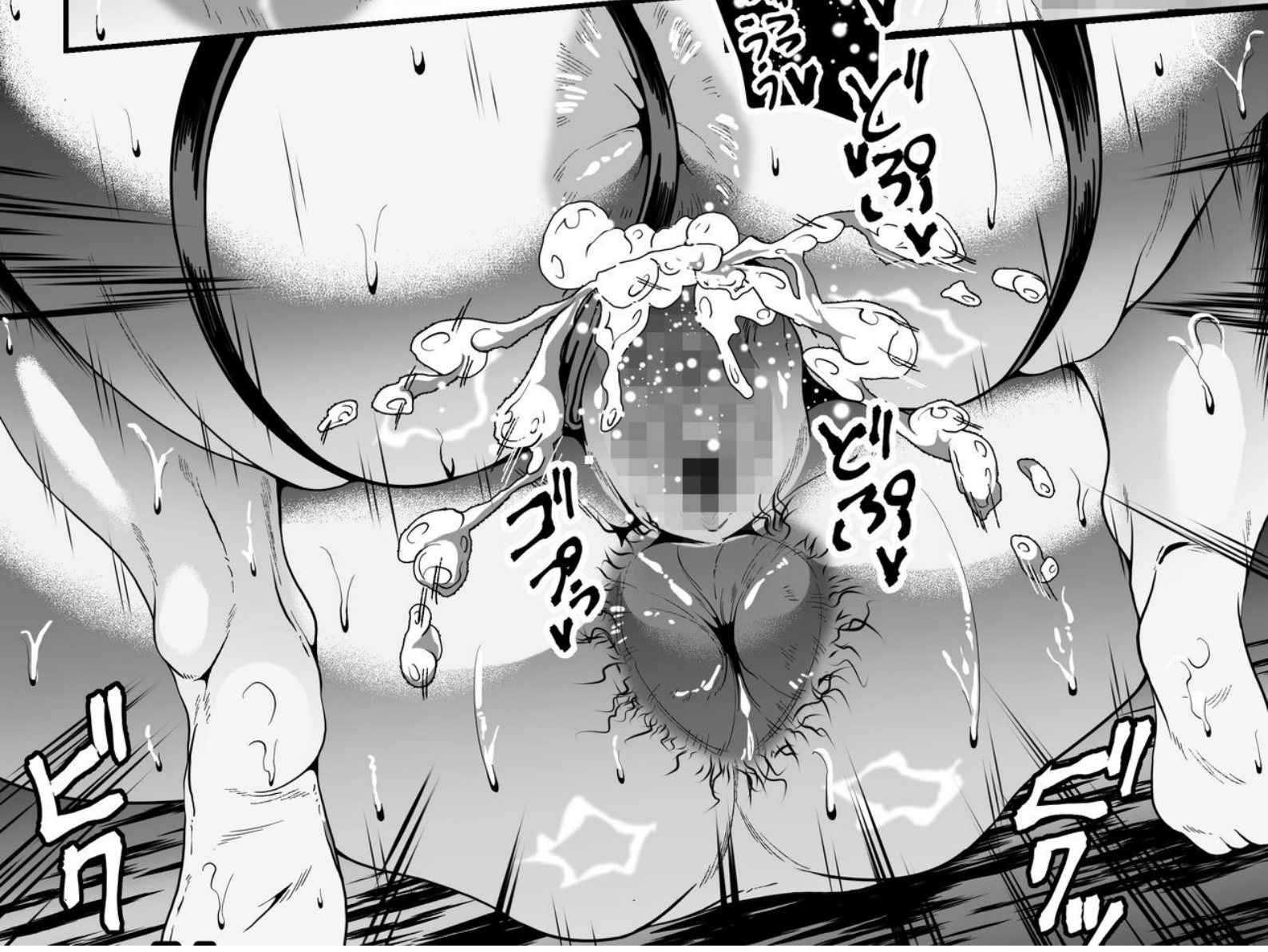
スィ

スィ
スィ

スィ



射精の力
射精の力



じゃあ…
これ外してくれる？

おや

……

ちよつ！今更なにつ！！
人の腔内なかにこんな
馬鹿みたくに出しといと
どんな言い訳があるのよっ！

……
あなたもイつたじゃない？

なっ腔内なかに出されたからでしょ？
先にイつた方が負けなんだから
私の勝ちでしょっ！
外しなさいよっ！！

……
あなた何か勘違いしてない？

それと私はあなたのおまんこが
気持ちよかったから
射精でちやつたのよ？
あなた……

私が出す前にイつてたんじゃないの？

えっ？……うら……？
よ……よくわかんないけど

で……でも……
それはイきかけって言うか……
軽くって言うか……
ほっ……本気でイつてないから……

ふん？

普通の子の何倍もケツツツに
いっぱい締め付けてきたけど……
そっ……イつてはなかったのね？

うぐら……そっそれは……



ええ…
私が先にいつちやつたんだから
仕方ないものね？

えっ…あ…ちよっ…
あ…あの…ちよっ…
ちよっ…待って…

ん？



良いわ
外してあげる♡

きなこ…

えっ…？
アレ？…
えう？あ…
ホントに？



(なっ何でそんなに簡単に認めるのよっ！
これじゃ…私が…なんか…
ズルしてるみたいじゃない…)

…あ…あの…ちよっ…
ちよっ…あ…かも？

そっ…じゃあ首輪は
このまま良いのね？

うえっ…
そ…それは

ふふ…♡
可愛い子ね♡

あっ♡
んっ♡んっ♡
んあ♡

あ…あの引き分けってことじゃ
だめ…かしら？

ふふ…♡いらねえ♡

同時っ♡
じゃあ続けまじよっか？

あ…う…うんっ♡



んひひいっ!!



絶対負けられないっ



ちよつズルっ…
ズルじゃないっ?
んひひいっ♡♡♡

ちくびいらっ♡♡♡
いっ♡♡♡

クク



ちよつと乳首弄ったくらいで
騒がないでよ...

別にこれくらい
エッチの範囲内でしょ? ♡

たろん

んん

んん

ほろん



文句があるならっ
あなたもすれば? ♡

ろん

ろろ

ろろ

ろろ

ろろ



つうっ♥♥
なんなのよ
この娘…♥

快樂に対して
貪欲過ぎる♥♥

ズレ♥
ズレ♥
ズレ♥

なにより…一方的に
責められるってのが…

堪らなく不愉快だわ…

ハッ♥

ズレ♥

ズレ♥





ふふふふ
イクラ？イクラちゃうの？

すっぴんさんさんさんさん
おちんぼ射精準備してさ♡♡

射精しちゃう？
射精しちゃうのね？

あはあ♡…早漏ちんぽ
おまんこに負けちゃう？

ん

ん
ん
ん

ん
ん
ん

ハア♡
ハア♡

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん
ん
ん

ん
ん
ん

ん
ん
ん



んあはあっ♡♡♡
イっつっ♡♡♡

早漏ちゃんぽ♡負けちゃんぽ♡
おまんこに完全敗北で
くっついザーメン
どぶゅびゅびゅっ♡♡♡

あはあ♡♡自分も
イキそうなのに…

必死ね…♡



一緒にイきましょう♡♡

ああ…
でるっでるっ♡♡すっ♡♡のっ♡
でるわあっ♡♡♡



すごいわあ…腔内うねって
もうイク寸前じゃない…

いいわ♡…
思いつ切り腔内に
ぶちまけてあげる♡





おは
おは
おは

おは
おは
おは

おは
おは
おは

おは
おは
おは

おは
おは
おは



あん♥
もう……♥♥♥

お尻ベトベトでお
すっごい臭い……♥♥♥

んふう……♥こっ तरी
プルプル特濃ザーメン♥♥♥

かゝゝかゝ

あゝゝゝ

うが

うが

ん

ん



ふふ……♥
これ以上ないってくらいの
負けっぷりだけど……

気の利いた
言い訳でもあれば
続けてあげても
良いわよ?♥♥♥

ブチッ!?

唐突に首にまとわりついてた不快感が消える。

「えっ?あれっ?」

少し遅れて拘束具マディレットが外された事を理解した。

「ちよ...何でそんな簡単に...」

なつなに企んでるのよっ?」

この人がそんな簡単に負けを認める訳がない。

何だかんだ言いがかりをつけて

約束を破られた方がまだ納得できる。

「企むって...」

「こんなモノがそんなに重要?」

「さっきまで私を締め付けていた...」

今はただの紐みたいになつた拘束具マディレットを弄びながら

アドリアーナが問いかける。

なんか使用済みの下着を

いじられてるみたいで恥ずかしい...」

「当たり前でしょっ?」

そんなの付けられたままじゃ何されるかっ!」

減少率はそれほど高くないみたいだけど

そもそもこの人と私の力の差が在り過ぎる。

そのうえ2、3割も削られたら実質この人のやりたい放題だ。

「これねえ...」

愛菜あいなが付けさせろってうるさいから付けてただけよ...

私には最初からどうでもいいわ」

ほんとうにどうでもよそそうに吐き捨てるアドリアーナ。

なによっ!?その言い草っ!

外して貰おうって必死になつた私が馬鹿みたいじゃないっ!!

「もっっ!」

負けたのが悔しいからって今更そんな言い訳苦しいわよ?」

「負けて...なにが?」

事も無さげなアドリアーナ。

「フッ...見苦しいわねっ

言い訳しようが無い程の負けっぶりじゃない?」

いなぎよく認めなさいよっ!!」

会話が噛み合わない。

嫌な感じ...私だけが空回ってる感じ...」

「あなたが勝手に勝負だつて勘違いしただけでしょ？」

あなたがイク前に私をイかせられたら

拘束具を外してあげるって言ったのよ？」

子供に言い含めるようなアドリアーナの口調が

あやかをイラ立たせる。

「だっ……だから私の勝ちじゃない。

悔しいからつてグダグダ言い訳して

負けを認めない方がよっぽどみっともないわよ？」

感情的になるあやかとは対照的に

アドリアーナは落ち着いている。

「だからつて……

ほんと理解が遅いわね……。

初めから勝敗を決める様な事じゃないつて言ってるのよ？」

そもそもあなたが負けた場合のペナルティが無い時点で

勝負として成立してないじゃない？」

くっ……やっぱり……この人と口論してると

なんかいつつ私が悪いみたいになつてくる……。

「そ……それは……私が負けたら首輪が……

ずつと付けっぱなしに……なるんだから……。」

弱々しい声色があやかの苦しい心情を語っている。

「勝負の結果が現状維持なら

私にメリットが無いじゃない？」

「うっへ……」

アドリアーナのとどめの一言にあやかは押し黙る。

だめだあ……。

何を言つても言い返されちゃう……。

客観的に聞くとこの人の方が

正しいんじゃないかって思えてくるし……。

二の句が継げないあやかにアドリアーナが続ける。

「こんなものお願いされれば、すぐ外してあげたわ。

まあ……ただで外すのもなんだから

ちよつとご奉仕でもさせようと思っただけよお……♥♥「

ぜええ……たいっ嘘っ!!!

すっごい我慢してたじゃない。

それなのに先にイカされちゃつて悔しくて

恥かしくたまらないんですよ!!!

……

……

でも……

そんなこと絶対認めないわよね。

なんか口喧嘩で勝てる気しないし……

気持ちを切り替えよう………。

そもそもこの人に負けを認めさせることが

目的じゃないんだから、今は解放された事実だけ

受けとめればいいのよ。

「それにしても……あなた………。

それだけ脅威に感じてるコレ外すチャンス

逃してもまだ続けたかったの?」

無理矢理自分を納得させようとしている

あやかに底意地の悪そうなアドリアーナの声——。

もともと火照っていた身体がさらに熱を帯びる。

「はっーはあっ??何がっー何がよおっ!?!」

最悪っ!?!

コッチが折れたみたいになってるんだから

もういいじゃない。

何で次はあなたのターンみたいになるのよっ!?!

何をからかわれるか察し焦るあやかに

アドリアーナは続ける。

「なんか……まだ続けても良いみたいな事

言ってたでしょ?」

思わず口走ってしまった些細な言葉尻を

いちいち蒸し返さないでよっ!?!

ほんとっ性格悪い。

「つつっ……つつ」

どこかでアドリアーナが負けを認めないことを

望んでいた自分が居た。

それ自体少し冷静になった今はすぐく恥ずかしいのに………。

なによりそれを簡単に見透かされたことに

身体が震えるほどの羞恥を感じる。

「くっ………♥

私はいつぱい射精して満足したわあ♥♥

あなたは………大変ねえ?♥

イク気満々だったおまんこ

寸前でオチンチン抜かれちゃって」

「べっ…べっ…」

絶対に知られたくないことを指摘され声が上ずる。

身体が…あそこが…うるさい煩い。

いく直前でお預けにされた身体が

貪欲にアドリアーナを求める…。

いますぐペニスをおまんこにぶち込んで欲しい♥

もうギリギリなんだから

入れられただけで、きつとすぐにいつちゃうっ♥♥♥

イッてるおまんこに、我慢なんてしてしないで

思いつ切り中出して欲しいっ♥♥

遠慮しないで子宮を

押し潰すくらいガンガン犯して欲しい♥♥♥

ザーメン混じりの愛液が太ももを

つたう感覚に慌てて足を閉じる。

(だめっ?!いちいち反応しないでっ!)

確信なんてないんだからっ

かまをかけられてるだけなんだから)

「あゝ♥♥♥気持ち良かった♥♥♥

わたし…もう休むわあ♥♥♥」

「じっ…」

もうこれで終わり…最後通告を受け

下腹部に耐え難い熱を感じる…。

少しでも気を抜くと

アドリアーナにすがりついて思いつ切り

犯して欲しいと懇願しそうになる。

ほんと…うっとおしい。

私の身体なんだから

私の思い通りに動きなさいよっ!?

「ん…♥あなたは…

オチンチンで散タイキまつたのに

これからまだオナニーしちゃうのかしら?」

からかうようにいやらしく嗤うアドリアーナに

あやかは短く吐き捨てるのが精一杯だった。

「だっ 誰がっ!!」

誰が…そんな…こっ…

いいからっ、早く…早く出てっ!?

じゃないと…わたし。

「それじゃあ……おやすみなさい……♡」

おやすみなさい……♡♡」

ひらひらと手をふり……

悠然と満足そうに部屋を後にする

ルブランニアドリアーナ。

その後ろ姿を悔しそうに見送るあやかは
懸命に身体のうちぎと戦っていた。

……

……

……

………

(…まったく…なんて娘)

散々射精し物理的にも精神的にも満足した。

口にした言葉に嘘はない………。

にもかかわらずアドリアーナのペニスは

へそに付きそつな程そり立ち

淫臭を放ちながら物欲しそうにビクついていた。

あのままあそこに居たら

間違いなくあやかを犯していた。

(心…♥懸命に平静を装ってたけど…♥)

部屋に充滿する程の濃厚メスの臭い………。

全身でアドリアーナを求めるあやかの姿を思い起し

アドリアーナのペニスは更に硬さを増す。

(まあ…続けてあげても良かったんだけど………)

でも…それは違つわよね

自身にまたがり懸命に

腰を振るあやかの姿が思い起こされる。

(必死に考えて私を先にイかせたんだから

そこは尊重してあげないとね)

耐え難い程の淫欲に苛さいなまれても尚

それを抑え込む強靱な心……。

「心…♥壊し甲斐がありそうね♥♥♥」

continued next episode 〇〇

でもオナニーは
した...

んっ♡♡!!

イツ!!
イツ♡

イっ♡♡!!
イっ♡♡♡♡♡

